

第3回宮臨技、岩臨技合同学術研修会

研修会名「糖尿病の検査から臨床までを学ぼう」

会場 : 気仙沼市立病院 会議室

日時 : 平成26年9月20日(土) 14:00 ~16:30

参加者: 42名

内容

メーカーレクチャー

「HbA1cの測定原理とデータの解釈について」

講師 東ソー株式会社 カスタマーサポートセンター 伊藤義正

ヘモグロビンの構造、糖化反応、歴史、HPLCの測定原理を基礎から復習することができました。HbA1cと平均血糖値に差がある場合のデータ解釈、国際標準化についてもわかりやすくお話しいただきました。

「血糖コントロールマーカーについて」

講師 協和メデックス株式会社 営業支援部 近藤 大

血糖コントロールマーカー、1,5AG グリコアルブミン、HbA1cの特徴についてわかりやすく解説いただきました。グリコアルブミンの有用性、食後高血糖(IGT)と心血管イベントとの関連、1,5-AGの場合、HbA1c、グリコアルブミンではわからない直近数日間の血糖コントロール状態に加えて、食後の一時的な高血糖状態、正常から境界値付近の血糖値の変動などを敏感にとらえることがわかりました。

特別講演 「糖尿病と最近の話題」

講師 気仙沼市立病院 診療部長 星 達也 先生

糖尿病の定義、疫学、診断、合併症、治療についてわかりやすくご講義いただきました。合併症では、網膜症、腎障害、大血管障害といったもの以外に、アルツハイマー型認知症が高頻度に発生しています。最新の糖尿病治療薬についてもお話しがありました。インクレチンは消化管ホルモンで、すい臓の β 細胞を刺激してインスリンの分泌を増加させる働きをもつものがいくつか存在しています。インクレチンにはGLP-1とGIPというホルモンがあり、それぞれの働きで β 細胞に作用します。そのインクレチンを不活化するのがDPP4ですが、その阻害薬が新薬として治療に用いられています。今年になって新たな新薬SGLT2阻害薬が次々と発売されています。処方期間の問題や、副作用の問題などありまだ使用している施設は少ないですが、来年4月以降は、処方が増えるのではないかとのことでした。血糖コントロール早期介入の重要性と、臨床へ血糖コントロールマーカーの正確なデータを返すことの必要性を再認識した講演でした。

文責 宮臨技学術部長 氏家 和明